令和4年度事業報告書

四天王寺さんめい苑

昨年まで辛うじて踏みとどまっていた、コロナ禍の洗礼を受け、グループホーム、生活介護でも、クラスタ状態を体験した。その中でも、職員が相互に、その場その時、自らできることを率先して勤務を調整して踏ん張り、乗り越えることができた。『ゼロベース･フルオープンのさんめい苑』を模索して、具体的に計画するにあたり、施設として大きな経験値得ることができた。

混沌とした一年ではあったが、新しいステージを迎える、さんめい苑の『今あるべき姿』を構築していく上で明るい希望を見いだせた年であった。

～事業活動報告～

（1）様々な視点から『今』を見つめ直す機会の創造

さんめい苑創設当時から、親御さんとご利用者、施設の三者の関係性を大事にして施設運営を進めてきましたが、年を重ね親御さんの高齢化が進み、新型コロナウイルス感染症の影響を反映し、制度的にも、地域包括ケアシステムを構築し、自立生活援助を整備して、利用者一人ひとりが、自分らしい暮らしが求められており、利用者を中心に据えたサービス提供への意識改革が不可欠である。今年度、個別支援計画の作成手順の見直しに取り組み、その幕開けとした。

（2）考察･仮説･実践･検証へのチャレンジ

個別支援計画作成手順を見直すことで、慣れや経験からの憶測に頼らず、ご利用者やご家族とのコミュニケーションを図ることでご利用者本人の意思を探る取り組みができた。
今後導入される障害福祉関係データベースの構築への対応も鑑み、この取り組みの深化を図りたい。

（3）施設の機能整備、地域との関係作り

サービス環境の改善の一環として、ミスト浴を導入した。ご利用者からも好評で、新規ご利用者獲得にも貢献した。

地域との交流は、町会の協力を得て、公園清掃を行った。これからも、さんめい苑の見直しと共に、近隣との交流を深め、地域貢献の機会を引き続き模索していきたい。

～改善活動～

（1）安全への取組・環境改善

「異常を感じたら、すぐに報告、対応する」の徹底することを心掛けた。ご利用者の安全を意識し、異常を感じ取れる感性を磨くことが今後の課題である。

（2）取組内容の整理、区分、明確化

職員間の連携不足を解消し、『わかりやすく、しっかり周知共有すること』を目指したが、十分な成果を得ておらず、今後に課題を残した。

（3）スタッフの『個』の能力アップに資する人財育成

職員個別に対人技術など不得意な分野の研修への参加を実施した。